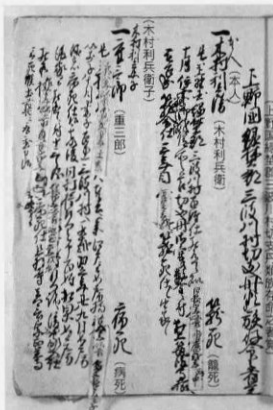
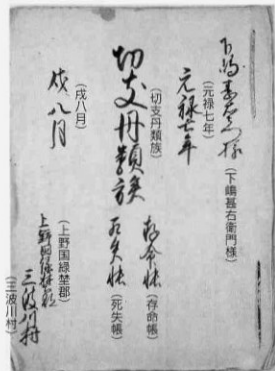
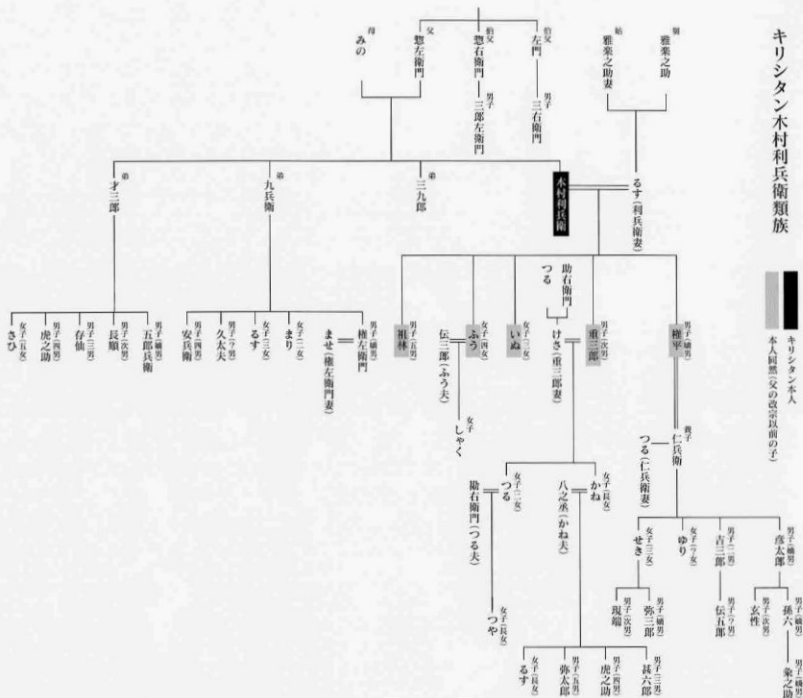


上州の隠れキリシタン



キリシタン木村利兵衛類族

キリシタン本人
本人無断父の改宗以前の事



この史料は明暦2年（1656）キリシタンの全国的な取締りの際に捕らえられた三波川村の木村利兵衛のもので、左はその後の利兵衛の子孫を系図にしたものです。利兵衛は、武蔵国児玉郡渡瀬村（現在の埼玉県児玉郡神川町渡瀬）に潜伏していた「隠れキリシタン」の自分の家族が捕らえられたことをきっかけに投獄され、万治2年（1659）獄死しました。妻と長男は17年後に釈放されましたが、子孫は男子が七世、女子が四世まで「類縁帳」の作成を義務づけられ幕府の監視を受けていました。文化8年（1811）の古文書には彼の子孫は既に絶えたとの報告があります。

江戸幕府は、キリスト教を禁止していましたが、禁教後も密かに信仰を持ち続ける「隠れキリシタン」があり、上野国では、緑壁郡三波川村（現在の鬼石町三波川）と沼田の隠れキリシタンが知られています。

〈参考資料〉『群馬県史』通史編6 609～622頁